

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全課  
担当課長名：森山 誠二

事業名	高規格ICアクセス 主要地方道北勢多度線（阿下喜）	事業区分	地方道	事業主体	三重県
起終点	自：三重県いなべ市北勢町阿下喜 至：三重県いなべ市北勢町阿下喜	延長	0.44 km		
事業概要	主要地方道北勢多度線（阿下喜）は、東海環状自動車道（仮称）北勢IC及びいなべ市新庁舎、いなべ市防災拠点へのアクセス道路であり、交通渋滞の緩和、災害時のネットワーク強化を主な目的とした延長約0.44kmの4車線拡幅事業である。				
平成28年度事業化	都市計画決定 無	平成28年度用地着手	平成28年度工事着手		
全体事業費	7.0億円	事業進捗率	48%	供用済延長	- km
計画交通量	11,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.3 (残事業) 6.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 3.6/6.9億円 事業費：3.4/6.7億円 維持管理費：0.15/0.15億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 23/23 億円 走行時間短縮便益：21/21億円 走行費用減少便益：1.2/1.2億円 交通事故減少便益：0.78/0.78億円	基準年 平成29年	
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C= 3.0~3.7 (交通量±10%) 事業費：B/C= 3.1~3.7 (事業費±10%) 事業期間：B/C= 3.2~3.4 (事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C= 5.9~7.2 (交通量±10%) 事業費：B/C= 5.6~8.0 (事業費±10%) 事業期間：B/C= 6.3~6.8 (事業期間±20%)				
事業の効果等	① 地域産業の活性化 ・東海環状自動車道（仮称）北勢ICを利用することで、地元企業の物流が円滑に行われ、地域産業の活性化が期待される。 ② 都市の再生 ・農業振興や生業・就農促進、商業・観光振興、市民協働の促進など、まちづくり、ひとづくりの拠点として、いなべ市新庁舎に隣接して建設予定の「にぎわいの森」へのアクセス向上が期待される。 ③ 国土・地域ネットワークの構築 ・東海環状自動車道と一体となり、地域ネットワークの構築に寄与する。 ④ 安全で安心できるくらしの確保 ・線形不良の交差点改良を行うことで、交通事故の減少が見込まれる。 ・通学路となっている当該区間に幅員3.5mの歩道が整備されることで、安全で快適な歩行空間の確保が期待される。 ⑤ 災害への備え ・三重県緊急輸送道路ネットワーク計画における、第2次緊急輸送道路の機能が強化される。 ・東海環状自動車道（仮称）北勢ICといなべ市防災拠点を直結する道路として、災害時のネットワークが強化される。 ⑥ 地球環境の保全 ・渋滞が緩和されることで、CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑦ 他のプロジェクトとの関係 ・東海環状自動車道（仮称）北勢ICから平成31年度完成予定のいなべ市新庁舎、平成32年度・33年度完成予定のいなべ市防災拠点へのアクセス道路となるため、連携して整備する必要がある。				
関係する地方公共団体等の意見	・沿線の関係市町や各種団体で組織する「東海環状道路建設促進期成同盟会」から東海環状自動車道（仮称）北勢ICへのアクセス道路として早期完成を要望されている。				

事業評価監視委員会の意見

- ・継続事業として優先する。（平成30年3月20日：三重県公共事業推進本部事務局）

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成29年度に東海環状自動車道東員IC～新四日市JCTが開通した。

事業の進捗状況、残事業の内容等（平成29年度末）

- ・用地取得率100%、事業進捗率48%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・東海環状自動車道（仮称）北勢ICの供用にあわせ工事を推進する。

施設の構造や工法の変更等

- ・建設発生土の活用等により、コスト縮減を実施。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。